

週報

2011.7～2012.6

国際ロータリー第2730地区 佐土原ロータリークラブ 第1195回 平成24年1月25日(水)

2011～2012年度
ロータリーテーマ



本日のプログラム

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「それでこそロータリー」
3. 四つのテスト
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 出席報告
7. 委員会報告
8. 自由討議「各委員会」
9. 次週例会の案内「SAA」
10. 点 鐘
11. 理事・役員会

2730地区ガバナー 長峯 基
中部分区ガバナー補佐 林 務
RT会長テーマ

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」

2730地区テーマ
「善いことをしよう」

佐土原テーマ
「クラブ会員の絆を より深めよう」

1月のテーマ
「ロータリー理解推進月間」

2月度の例会予定

- 2月1日(水)・・・「1196回」ゲスト卓話
2月8日(水)・・・「1197回」
会員卓話「原田 宗忠君・中武 幹雄君」
- 2月15日(水)・・・「1198回」職場訪問「J A ミヤベイ」
2月22日(水)・・・「1199回」
会員卓話「佐藤 高元君・宮原 建樹君」
- 2月29日(水)・・・「1200回」夜間例会「200回記念」

会長：荒武 義博
副会長：村上 實
幹事：永野 陽子
委員長：藤堂 孝一
会計：梶田與之助
事務局：吉野由里子
宮崎市佐土原町下田島
11703-18
TEL：0985-62-7833
FAX：0985-62-7877
例会日：毎週水曜日
例会場：石崎の杜「歓鯨館」
TEL：0985-62-7757

第1194回の記録 会長の時間

平成24年1月18日

< 荒武 義博 会長 >

先週の、1月11日(第1193回)新年家族合同の新年懇親会、御疲れ様でした。

昨年、今年度に掲げました目標に対して最低限のことは、何とか実行することが出来ました。地域に密着したロータリー活動の一環から「スポーツ少年団」への協賛や、他クラブへのメイク、佐土原RCのPR活動等、幹事を中心に残された6ヶ月間で更に、推進されるものと確信しております。

残念なことに、会員の減少はありましたが、増強委員長を中心に全会員が新規会員の加入推進を進めて頂き、新たな会員誕生も近いのではないかと思います。

等クラブは、2730地区でも結束の強い素晴らしいクラブと思います。更に他クラブからうらやましい佐土原に入りたいと、言われるクラブになることを希望致します。

年頭に当たり、私なりのロータリー活動とは、について少しお話をさせていただきます。

「自らが進んで楽しいロータリー活動して下さい。」これは、クラブ運営基本方針に記載した内容です。

ベテランロータリアンやロータリー学者の方々が数ある著書に力説されていますが、私もそう数多く拝読した訳ではありませんので参考までに聞いて頂ければ幸いです。

「ロータリー入門書」という平成15年に出版された前原勝樹氏「桐生RC創立会員」著書の中に「ロータリーとは、何か」ロータリーの終局の目的は人間関係を改善することによって、より良い社会をつくり平和な世界を築く為に貢献することにあると言われてます。その人間関係の改善のためには、一人一人の人間の善意を呼び起こし、奉仕の理想を発揚(はつよう)する必要があります。

そして、この奉仕の精神は人間同士が深い信頼と友情によって結ばれた時に始めて発揚できるものですから、ロータリー運動の出発点は「親睦活動」によることを確信します。

この親睦の実を最も効果的に上げる方法として、職業分類による一業種一人の会員制によってクラブを組織するという方法がとられていました。(現在は、会員減少から2001年の改正で一業種一人制は崩壊。)

本来は、例会出席によって親睦が生まれ、それから奉仕の理想が高揚されるのですから、例会の一時間は



楽しみながら訓練を受けられるロータリー独特の集会ということが出来ます。

こうして生まれた奉仕の精神を実践に移すにあたっては、会員の誰もが職場という身近な舞台を持っています。ここに職業奉仕が生まれます。しかもこの職業奉仕こそがロータリーの本質であり、また社会奉仕、国際奉仕の出発点となります。

ただ、留意したいのは、ロータリークラブが行う奉仕活動は、それ自体が目的であるというよりは、むしろ、ロータリアンに奉仕の実地訓練をさせるためのものである、という点です。したがってロータリークラブは奉仕団体とみるより、奉仕を志す者の集まりで、これら同志に奉仕を実践する勇氣と便宜(べんぎ)を与えるための機関であるといえるでしょう。国際ロータリーではロータリーの理念を簡潔に説明するものとして「ロータリーとは、人道的な奉仕を行い、全職業会における道徳的な水準の高揚を奨励し、全世界に善意と平和を築くために、国際的に結ばれた職業人の団体である」と声明文を採択しています。

ロータリーは、実践哲学とも言われています。始めに実行があり、後から理論がつけられるものであるとされて来ましたが、この情報化時代にそのまま踏襲(とうしゅう)したのでは非能率的です。まずロータリーの急所を学んで頂き、その上で自分のロータリー観を築き、その信念を実行に移すことのほうが早くロータリアンとしての真価を発揮出来るのではないのでしょうか。

論語に

「学びて思わざれば即ち罔(くら)し、思いて学ばざれば、即ち殆(あやう)し」

「学んでも考えなければ[ものごとは]はっきりしない。考えても学ばなければ[独断に陥って]危険である。」

ここで「学ぶ」とは理念を身につけることであり、「思う」とは道理を求め、その実践が伴わなければ真のロータリアンではないと同時に、しゃにむに自己流の実践に突進してもそれがロータリーの理念にかなわなければ、ロータリー活動とは言えません。

・・・これらを踏まえて

今期計画された各委員会の「目標」を再度、検証して頂き委員会のメンバーと良く飲み会懇親の場を実行して親睦を深め「目標達成」6月27日の年度末懇親会を盛大に開催できますようお願い申し上げます。

又、家族懇親会は、家族を交えた合同家族会が大きな親睦効果をあげることはいうまでもありません。しかもその効果は親睦だけにとどまりません。それは家族にロータリーを理解してもらおう絶好の機会です。家族をロータリアンにすることがロータリー活動に最も大切なことだからです。

このような家族合同懇親会が、今後はもっと有意義に開催されますことを強く願望します。

幹事報告

< 幹事 永野 陽子 君 >

- ※女性委員会
再度参加のご案内
会費の引き下げ
2,000円→1,000円
講演会参加対象者
男性会員・会員家族も
- ※きもつきロータリークラブ
創立20周年記念式典及び
祝賀会のご案内
- ※「DVD/ローターアクト
が燃えた」送付について
- ※2012-13年度クラブ状況報告書提出について
- ※1月のロータリーレート 1ドル=78円
- ※クラブ・ロータリー・カード
担当者登録のお願い
- ※2012～1013年度 山下ガバナー
年度年間予定表



委員会報告

○奉仕プロジェクト委員長 岩切正司君

2月15日(水)の「職場訪問」について、訪問先は「JAミヤベイ」さんに決定いたしました。
当日は、大森淡水うなぎ店にて食事をして向かいたいと思います。詳細につきましてはこの後の理事会にて決定後に皆さまへご案内いたします。



○郡司 武俊君

1月11日家族新年会でのバザー売り上げ金額は¥162,000です。

♪1月のセレモニー♪

- 1月誕生月～ 正岡 文郁君
村岡 博君 田邊 揮一朗君
 - ご夫人～
原田 裕子さん
- ♪皆さまおめでとうございます♪



♪ハッピーBOX披露♪

- 柳田 光寛君～12月誕生月 51歳になりました。ここ2～3年風邪を引くこともなく絶好調です。丈夫な身体をくれた親に感謝。
 - 郡司 小百合さん～12月誕生月 とうとう大台に乗ってしまいました。体の衰えは否定できませんがせめて気持ちだけでも若々しくありたいと思う今日この頃です。
 - 大久保 貞子君～12月誕生月
今年もどうぞよろしくお願ひ致します。
- <財団BOXへ>
- 梶田 與之助君～新年家族懇親会欠席の為
 - 岩切 正司君～久しぶりの例会場ですね。

出席報告 < 出席委員 田邊 揮一朗 君 >

会員22名 (免除1名) 欠席者数 5名 出席者数 17名
有届け者～ 佐藤君・日高君・村上君・福井君・吉田君
出席率 80.9% 無断欠席数(前回)0名
メイクアップ 0名 修正出席率 72.2%

フォーラム <クラブ広報委員長 藤堂 孝一君>

[ロータリー理解推進月間のあたり]

ロータリーの誕生から106年経過した今、いろいろな意味で変革のときを迎えている話を聞きます。ガバナー月信でも秦PGが寄稿されていますが、我が佐土原クラブの会員もいろいろな方が今まで入会されて退会されています。何もロータリーの事を理解するまでもないままに退会されていった方が多いと思います。入会した初期のころは、すぐには理解できないけどもそのうちわかってくるからすぐに理解しなくてもいいからと言われ続けていくうちに、退会していく人を見てきました。



ロータリーの源流の会員になって田中毅PGのいろいろな資料を見ていく中で少しずつでも皆さんに広報として伝えていければと思います。

1905年2月23日、親睦を目的としてロータリー・クラブは活動を開始しました。

ロータリーが創立された当時は、いかにして利潤を独占しようかと貧欲な資本家が弱肉強食の競争に明け暮れていた時代であり、特に西部に進出するための交通の要衝として栄えていたシカゴは、成功を夢見た人たちが集まった無法と腐敗の街であり、事業主は無秩序な自由競争に狂奔し、同業者はすべてライバルであり、法さえ犯さなければ金を設けたものが成功者として、即ちアメリカンドリームを達成した人としてもてはやされました。

労働者を搾取したり顧客をごまかしたりした取引で大金を得たことに対する後ろめたい気持ちも、僅かばかりのチャリティーをすることで周囲の人も納得しました。騙すよりも騙されるほうが悪いという風潮がまかり通った時代でした。すさまじい自由競争の中で生きているビジネスマンにとっては、毎日過酷な日が続く、孤独感と疎外感に加えて、いつもこの過酷な自由競争の敗者になるかもしれないという恐怖感が常に付きまとっていました。そんな環境では親友ができる道理はありません。もしもこの街の中で心から相談できる、または語り合える友人が居たらどんなに素晴らしいだろう。そういう発想から、ポールハリスはロータリーを創ったのです。

親睦を目的としてロータリーは出発しましたが、せっかく一人一業種でたくさんの仲間が集まったのだから、お互いの商売を利用して金儲けにそれを利用したらどうだろうかという、さもない発想が浮かんできました。即ち物質的相互扶助という考え方が起こってきたのです。

最初のシカゴ・ロータリークラブの定款は7条の定款と12条の細則からなる本格的な規約であり、定款の第2条第一節には会員の事業上の利益の促進。第2節には会員同士の良き親睦と明記されており、当初のシカゴ・クラブには奉仕の概念はなく、事業の繁栄と親睦を目的としたことがわかります。

～次回へ続く

(田中毅著・シェルドンの森から抜粋)

四つのテスト

「言行はこれに照らしてから」

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

◆◆◆事務局便り◆◆◆

☆1月21日(土)都城会場「女性委員会」に参加された永野 陽子幹事・大久保 貞子会員 ご苦労様でございました。

☆佐藤 高元会員の全快復帰が1日でも早まりますことを心よりお待ちしております。

☆会員卓話・委員会報告等「原稿提供」のご協力をどうぞお願い致します。

MEMO

例会中は携帯電話の電源を切るかマナーモードにしてください...

.....

.....

.....

.....